

第6回 中学校給食推進会議 会議録

■開催日時 平成26年8月19日(火)

10:05～10:30

■場 所 川崎市役所本庁舎2階特別会議室

■出席者 委員

福田市長

砂田副市長

三浦副市長

菊地副市長

小金井総務局長

瀧峠総合企画局長

大村財政局長

伊藤経済労働局長

伊藤健康福祉局長

金子まちづくり局長

渡邊教育長

所管局(教育委員会事務局中学校給食推進室)

望月室長

森担当課長

北村担当課長

■内容(進行 市長)

—市長挨拶—

- ・第6回目ということだが、これまでの経緯を見ると相当な数の会議を開催している。また全町連やPTAなど進捗状況の報告や周知など丁寧な対応をしている。関係部局との協力と事務局の担当課には心から敬意を表したい。
- ・これまで中間取りまとめについて広く周知してもらってきたところだが、これからたたき台を検討することなので、今後は連携を深めて市民に対して、あるいは議会に対して丁寧な説明をして理解いただきながら進めてもらいたい。

—資料説明—

(主な質問・意見等)

副委員長

- ・アレルギーについて、医師の診断を元に全て対応するのか。

事務局

- ・医師の診断による学校生活管理指導表を提出していただいた上で、検討していくが、7品目全てに対応できるかという、完全に除去することはできないと考えている。また、最初から7品目できるかという、相談の上できるところからはじめる。

副委員長

- ・実際アンケートの中で7品目以外を回答している方もいるので、実施の段階ではかなり幅広く調節をするということでもいいのか。

事務局

- ・そうである。

副委員長

- ・公設民営方式、PFI方式それぞれのメリット・デメリットをわかるように説明して欲しい。

委員

- ・民設民営は難しいとの説明があったが、公設民営かPFIか、例えばPFIで行こうと手続きに入って結果的に間に合わなかったとなったらまずいので、そこは早めに結論を出す必要がある。PFIのほうが時間がかかり、スケジュール的に厳しいとも思うので、早急に検討していただいて、時間的なりミットもあり総合的に判断して決めていく必要がある。

副委員長

- ・場合によっては、センター方式で3箇所となったら、3箇所の中でPFIのほうが早く動きそうな場所があるとしたらPFI、そうでない場合は公設民営という組み合わせもありうるという想定か。

事務局

- ・そういった組み合わせも含め、早急に検討してまいりたいと考えている。

委員長

- ・アレルギーのアンケートに関して、アレルギーがあると回答した人数と除去した方が良いと回答した人の人数が違うのはどういうことか。

事務局

- ・こちらについては、給食で対応が必要かとの設問なので、「給食ではそのまま出しても子どもが自分で選り分けるので大丈夫とか、また給食程度であれば食べられるとのことではないか。実際に小学校でも、食物アレルギーはあるが給食で出されるぐらいの量であれば大丈夫という例もある。そういったことから、アレルギーがあると回答した人数より除去したほうが良いと回答した人数が少ないのではないかと解釈している。

委員長

- ・実施手法については、いろいろなところから自校方式や親子方式を求められているが、教育環境への影響が非常に大きいことをしっかり説明して、誰が見てもこの方式しかないという納得感がある中で進めていくということをしっかり説明していかないと。なんとなく自校方式、なんとなく親子方式といった、なんとなくの議論ではない。だから誰がどのように見てもこの方式しかないということを丁寧に説明していかないといけないと思うので、議会含め各種団体・市民にしっかり説明してもらいたい。
- ・PFIなのか公設民営なのかについては、なるべく早く決めないとスケジュール的にタイトなところがある。

副委員長

- ・公設民営の場合、財源のことを考えると踏み込めないところがある。そこがネックではある。

副委員長

- ・大きな違いは、公設民営は施設を市が作ること、PFIだと初期投資が平準化される。3箇所のセンター候補地について、それぞれPFIで行けそうなケース、難しいケースがありうると思うので、具体的な場所が決まってこないという方式が決まってこないという側面もある。

副委員長

- ・ P F I だと一つひとつ法令に従い進めるので時間がかかる。 P F I に近い P P P のような方式もあるのではないかと。各場所について個別に検討していかなければならないのではないかと。

閉 会